

發行兼編輯人 川崎文治

福島縣石城郡平町長橋町廿五番地
發行所 常盤毎日新聞社



刊夕日三十月二十

定価 一部金貳銭 廣五銭十二
一ヶ月廿銭 半年一元二角
郵税五厘 印刷費五十銭
日刊 日曜大祭 福島縣石城郡平町長橋町廿五番地
印刷所 常盤毎日新聞社

一冊の代金で
御希望通りな
五冊の雑誌が
自由に読める
平町長橋町三五
川崎文庫
(申込次第規則書進呈)

内科・胃腸科・婦人科
十二指腸虫科
花柳病科・X光線科
松村病院
平町南町電話一〇七番
内科・外科・耳鼻
咽喉科・花柳病科
高久病院
平町田町電話四五三番
内科・外科・花柳病科
耳鼻咽喉科・婦人科
赤心堂病院
平町田町電話四七五番

歳末未出
年未年始の... 御贈り物には
實用で便利な...
商品券を御便ひ召され
金額は何程でも御遠慮なく
御用命願上ます
中野呉服店
平町三丁目電話六十七番

入院隨意
小兒科
皮膚科
花柳病科
平町城山(舊城跡)三の丸
青沼醫院
醫學士青沼淡夫
電話四〇三番

山古印醬油

元造 鹽屋本
電話二七番

特長
美味
經濟

建築ペンキ塗
美術諸看板
硝子金銀文字
其他各種
大音堂
平町四丁目

電話新設披露
電話卅一番
平町土橋通り
原齒科醫院

ゼブラ自轉車購買會
今回は何時でも御入會が出来升
景品付... 惠比壽屋商店
平南町(電話呼三四四番)

寄書
近事雜觀
展望臺生

政府では愈々五百四十箇所の郡役所中百二十箇所だけ整理して四百二十箇所にすとのことであるがこれが實施の暁には相當面倒な事が起りはせぬか今からその前途を悲觀して居るものも尠くない

一体現郡制の發布された當時は郡と郡との境界の標準を何處に置くべきかに就て大分議論があつたが結局山とか川とか或は山林とか或

は昔からの習慣で自然利害關係を異にして居た處を二つに別けることにした

現在の處の郡制は先づその完璧に近い區劃となつて居る然るにこれを廢合して小郡は大郡にて併合するといふことになれば或は經費の點では大に助かるかも知れぬが區劃は自然的でなくして人為的だからいろいろの點で衝突を惹起するを免れまいと今から取越し苦勞をして居る者もある

政友本黨合同の噂は何時でも瓢箪から出た駒のやうに煙の如く雲の如く消え失せ

株式買中値
電話に金融致し

銘格 拂込 時價

磐城銀行	五〇〇	五三〇
平銀行	五〇〇	六八〇
磐越銀行	一一〇	一〇五
磐城實業	五〇〇	四二〇
磐城實新	三〇〇	二八〇
田村實銀	一一五	一一五
四倉銀行	一七五	一七五
農工銀行	二〇〇	二五〇
同新	一五〇	一九〇
百七銀行	五〇〇	五五〇
同新	一一五	一六〇
七七銀行	一一五	九八
郡山電氣	五〇〇	四三五
同新	二五〇	一九五
只見川電	一一五	七五
植田水電	一一五	一五五
好問水電	一一五	一三〇
磐城製菓	一一五	六〇
磐城製菓	二〇〇	二五
平信託	五〇〇	二五
磐城勸業	一一五	一三五
植田物産	三〇〇	二六〇
平製氷	二五〇	一八〇
好問軌道	五〇〇	三〇〇
入山新	二二五	一七〇
小田炭礦	二五〇	一〇
磐城炭礦	五〇〇	四二〇
同新	二二五	一八〇
磐城セメン	五〇〇	六五〇
同新	三五〇	四四〇
平運送	一一五	八〇

平町田町 電話三三三番
丸登株式店
川添房二郎

平町田町 電話三三三番
丸登株式店
川添房二郎

平町名刺交換會の 趣旨徹底を期さん

町當局が今考究中

平町では過去何年來の恒例として例年一月一日には町在住者の名刺交換會を開催し廻禮應接の煩鎖舊慣を打破して生活

改善の一助に資す

べく心がけ来り、来るべき大正十四年の元朝に於ても同様開催の筈で茲一兩日中之れが下準備に着手すると云ふが從來の例に徴するに參會申込者の一部に在つては自身會場に顔を出さず丁稚或ひは子守女等をして

會員券と酒折詰等

と引替へさせる向少くないと同時に實際會場に參した者にして散會後舊慣をのまゝの廻禮を始め已知親近の家庭を應巡するもの少なからず等該交換會開催の趣旨に副はないものあるので今や勤儉獎勵や生活改善を高唱せらるゝ昨今の

時節柄 来るべき新年に於ては

一層前記の矛盾撞着なきを期すべくその徹底方に關し役場當局にては目下考案中であること

貸金請求の 一日十三件

年の瀬を控へた

平區裁判所

年の瀬を目前にひかへた今日此の頃の平區裁判所は民

國旗を樹てよ

平消防組宣傳

既報平消防組にては十五日全町に亘り火防獎勵の爲め出動する筈であるが其際祝祭日に國旗を掲揚すべきに關し宣傳する

差し押への 礦區の買手が

更らにな

石城郡内の礦業税は四萬圓の滞納額あるは既記の如くであるが右に就き平稅務署員は語、『近年引續き財界不況し思はしくない處から礦山に事業を起すものなく

唯税金を收めて權利を繼いで居る者が多く殊に五六年も前の税金を未だ納めぬものが大部分で礦區の差押へはしても買手が更らにないのだから年々滞納金の山を爲すばかりだ

農家の飼養に好適

野村郡農技師語る

好間と磐崎にて使役傳習

石城郡農會主催朝鮮牛の犁耕法及び器具の製法等に關する傳習會は十五日好間村十六日は磐崎村にて開催する筈であるが野村郡技師の談に依れば『朝鮮牛は桑園及び果實園の中耕、水田の耕耘、麥畑の中耕等に極めて適し殊に性格が濃厚であつて忍耐力に富み粗食に耐え歩調は使役に使であるから農家には飼養すべく大いに奨励したい』

日本館開く

来る廿九日に

既報平町活動常設館平館主松田卯太郎氏が更らに常設館を増設すべく借受け契約を結んだ平劇場(元帝國館)は本日からの内部の構造替えに着工したが愈々来る廿九日より日本館と命名して華々しく蓋を開けると



健康な子供の 睡眠時間

子供は大人より多く睡眠時間を要します。殊に幼少な時は必要なので、これは身體ならびに精神の健全な

馬のムコさん

十五日頃来る

石城郡産馬組合から佛國に注文した種壯馬は横濱着港目下根本檢疫所に於て檢疫中であるが十五日頃までには來着する見込である

不平受付

投書歓迎

ブル攻撃足りず 昨日の寄書欄に中山雅司氏の所論がのつておましたが所謂ブル社會を攻撃するならば、もつと辛辣に、突つ込んで猛

募集

文藝其他投稿を募集します

省せしめることは出來ないでせうか。あの位の事で反省する様なブル的な人間輩は、とうの昔に凹んでゐる筈です

中山雅司氏の答 川崎君の新聞は主として平町を目標として居るらしいので私も寄稿する場合其心持を失はぬ様に努めて居ます。其爲めに平町の富家階級には辛辣に攻撃せねばならぬ様な人も見受けられませんが、唯郡内二三の村落等に未だ目覺めぬブル連があるのでは小當りに當て見た積です

間、學令兒童になりますとすつと短くなります。このやうに睡眠時間が多いだけでなく、健康な子供は床につくとすぐ熟睡して、然も眠りが深く、滅つたに目をさますことはありません。そして子供が一番深く寢入るのは睡眠後一時間前後の時です

常磐片々

佛國から馬のお婿さんが長い顔を一層長くして遙々石城郡に御入來、花嫁様は二百六十一頭

有名無實の觀あつた平町の名刺交換會、來年からは名實兼備に努むる由、お手並み拜見

平消防組が國旗を樹てよと宣傳、民家へより寧ろ官廳へ必要

移出米の成績 平穀物検査支所管内の十一月中の移出米成績は受檢數千二

百五十三俵の内等外千六百七十五俵五等四十八俵四等三十五俵三等一俵で輸入米は來る廿日まで調査する筈であるが同月の成績は極めて不良である

新川向ふに

訓盲院敷地

理事會が決定

平町警城訓盲院に過般開かれた理事協議會に於て改築移轉の敷地とし聚樂館通りより稅務署傍の幅四間の新設置道路突當りなる新川向ふ田地一反八畝歩(五百四十坪)借入の件を附議可

決したが然も其間頗る可能性質あるもの、如くであるが

朝日讀者慰安

平町警城通信社主催東京朝日新聞讀者慰安活動寫眞會は十四日午後一時より同六時より晝夜二回に亘り聚樂館に於て開催する筈

石城各炭礦に 鮮人坑夫減少

流浪性の爲め

石城地方各炭礦の鮮人勞働者は百廿名程あり仕事に對しては頗る從順である處から到る處で歡迎されて居るが何分彼等は流浪性を有し同一個所に長く働く事が少なく二三年も居る者は最も長い方であり昨秋の震災當時前後は多く入り込み約二百名に達したが復與と共に東京方面へ復歸したものが多く現在多數の鮮人が居るのは磐崎村の大日本炭礦内

永戸納稅表彰

石城郡永戸貨輪組合村第十四回納稅優良者表彰式は十二日午商十時から同村役場に於て舉行し高萩正二氏外百一名が表彰された

平町人事

出生 高橋軍司氏長男一司
△田町 柳澤篤義氏三男浩氣
△三丁 日朝倉つる(五八)

湯本火防檢査

石城郡湯本町にては十四日消防組員が全町の煙筒及び竈を檢査し十五日から夜警を開始する